

第4章 4.3.2節 震災への対応と復興への取り組みの詳細版（新野、西田(睦)）

2011年3月11日14:46、牡鹿半島の東南東約130km、深さ約24kmを震源とする、我が国の観測史上最大のマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が起きた。この地震では少なくとも3つの地震が連動し、南北約450km、東西約200kmの範囲が破壊されたと言われている(芦, Ocean Breeze 第4号による)。地震から約30分後には、岩手県大槌町赤浜地区にある国際沿岸海洋研究センター（以下沿岸センター）も津波に襲われ、3階建ての研究棟は3階の窓を越える高さまで海水に浸かった。このため、弥生、チャレンジャー2世・3世の3つの研究調査用の船艇を含め、すべての研究施設が損壊・流出し、使用不能となった。

柏キャンパスでも大きな揺れが生じ、2時間近くにわたる屋外退避を余儀なくされた。この間、3階の一部で上水の配管が壊れ、質量分析計が水を被って使用不能となる被害が生じたほか、所内の上部階で棚や実験機器が倒れる、棚の書籍が落ちるなどの被害があったが、幸い建物自身には目立った被害はなかった。地震当時、西田睦所長は品川で共同利用共同研究拠点協議会に出席中であり、15:12に池田事務部長、吉田課長宛にメールで地震への対応状況、大槌の沿岸センターの状況について照会があった。沿岸センターの川辺専門職員、大森係長と連絡を試みたが、電話は通じなかった。キャンパス内の食堂のテレビからは、想像を超えた津波の映像が飛び込んできて沿岸センターの状況への心配を増幅させた。

16:40には建物内の安全確認が終わり、屋外退避は解除された。西田所長は交通機関が不通となって帰所が困難となったため、携帯電話で災害対策本部設置の指示がなされ、16時50分に所長を本部長とし、新野副所長、木本副所長、道田教授（前沿センター長）、小島安全衛生管理室長、池田部長、吉田総務課長から構成される災害対策本部が設置された。交通機関が止まったため、研究所の多くのメンバーは研究所の建物で、収まらぬ余震を感じながら夜を過ごすこととなった。20:19にはタスマニアでの国際会議に出席中の沿岸センター佐藤（克）准教授からメールがあり、大学院生7名が同行、1名が海外調査中などの情報提供があった。23:58に池田部長より全所員に沿岸センターに関する情報提供依頼のメールを発信した。

3月12日

西田所長は品川のホテルのロビーで一夜を明かし、午後に運転が始まったつくばエクスプレスで研究所に戻った。20:42に池田部長より本部災害対策本部に、安否が確認できていないのは、院生等9名、教員2名、職員10名と連絡した。

3月13日

「大海研災害対策本部」会議で学生等の消息・安否確認と今後の対応を検討。夜までに安否未確認4名に。

3月14日

11:45 安否未確認は2名に。15:20 被災者への見舞い、災害対策本部のウェブサイトを立ち

上げたこと、そこに安否確認状況などの情報を順次掲載することなどを記した所長メッセージを HP に掲載。18:00 被災学生に対する柏での支援（研究スペース・PC 等）に関する依頼を大学本部に送付。19:00 計画停電に対する対応協議。22:00 柏ゲストハウスの利用状況確認。22:10 大槌センター全員の安否確認ができ、所長より大学災害本部へ連絡。

3月15日

10:40 計画停電についての所内案内を行う。11:30 計画停電による特別休暇措置の連絡を行う。11:50 16日に予定していた教授会の延期のアナウンス。12:00 所長より教授会メンバーへ節電・停電対応・自宅待機などについての指示。17:11 大竹沿岸センター長よりの電話による依頼に基づき、大学本部前田理事・副学長へ医薬品輸送のための緊急車両の派遣を要請。20:11 16日 9:20-13:00 に柏キャンパスが計画停電となるとの連絡あり。

3月16日

8:45 本郷東大本部前より医薬品運搬のため第1次隊の緊急車両出発。運転は本部の運転手2名。福田助教が同乗（医薬品および緊急車両については本部調達）。同じ頃、対策本部で被災教職員・学生の滞在先、服、当座の資金、所内での義捐金募集、OBに対する義捐金依頼などの検討を開始。計画停電対策として発電機の特長や消費燃料の確認も開始。13:30 大竹センター長から調達要望品の連絡あり。17:00 頃第1次隊大槌到着。17:35 本部で環境放射線対策プロジェクト立ち上げの連絡あり。19:00 頃大槌の緊急車両が大竹センター長を乗せて東京へ向け出発。19:36 本部より福島原発放射線情報第2報到着。20:00 に第2次隊として永田教授と天野氏（大学院生）が羽田発 ANA879 便で 21:05 秋田着。秋田市内の「アルヴェいわま薬局」において医薬品その他調達要望品を調達。

3月17日

午前中第2次隊は秋田市内で物品と食糧を調達。8:30 本部の緊急車両で大竹センター長が本郷に帰着。11:00 福田助教に第2次隊と共に東京に帰るよう伝達。物資は、赤浜小学校の避難所が一番困窮しているので、そこに重点的に配給するように永田隊に伝達。昼頃、第2次隊は秋田で物品を積み込み、あさひタクシー4台で大槌に向かう。途中で盛岡に寄り、畑氏（大学院生）をピックアップ。夕方、第2次隊大槌に到着。大槌高校に立ち寄り物品を引き渡したのち、往路と同じタクシーで夜の内に秋田に戻る（畑は盛岡で下車）。

3月18日

10:30 大竹センター長が柏に到着。被災状況の報告あり。10:50 第2次隊が福田助教と共に柏に帰着。13:00 所内の義捐金・OB 向け義捐金の手続きと被災学生・職員支援についての打ち合わせ。16:30 第3次隊（大竹センター長・道田教授）派遣についての打ち合わせ。< 3/20 羽田発 12:50 (ANA875) 13:55 秋田着、秋田から新幹線で盛岡に入り一泊、21日盛岡からタクシーで大槌へ>とする。この際、所長より大槌町の城山公民館に所の現地対策本部のための部屋を借りられるか町に打診を依頼するように依頼あり。18:30 被災学生の長期滞在のためにインターナショナルロッジに割安で滞在許可を打診。18:30 「白鳳丸」KH-11-3 のレグ2、「淡青丸」KT-11-4 の研究航海の延期についての HP でのアナウンス文検討。19:00

義捐金ないしは寄付の募集のあり方・文案について検討。(1)所内、(2)OB・大槌関係者、(3)本部での復興基金に分けて考え、当面(1)について所内分野単位で集約する方向で考える案を検討。20:00 佐藤准教授より 3/21 帰国で 3/22 柏へ出勤予定との連絡あり。3/22 に第 4 次隊（佐藤准教授・福田助教）で出発し、3/23 に大槌に入り、第 4 次隊の車で第 3 次隊が戻るように段取りすることにする。

3月19日

18:30 義捐金・寄付について再度検討。3/22 の週に、まず被災学生の支援を軸に、緊急性を帯びたものを所の構成員を対象に現金で集める。OB による義捐金は 22 日に所長名での口座開設を行い、1 週間後に口座番号通帳が作成されるので、所長から寺崎前所長、宮崎教授らに相談することとする。19:00 今後の大槌派遣計画についての検討。使える機器類・図書類・実験ノート（とりわけ学生）・サンプルの回収、可能な範囲で試薬類（とりわけ毒・劇物）・RI の詳しい被災状況調査が必要との認識で、第 3 次隊の情報を基に第 4 次隊以後に順次組み込むことにした。

3月20日

11:00 第 4 次隊の予定の検討。野外活動に適した服装（作業着、防寒着、ヘルメット、長靴、革作業手袋、食料）、記録用カメラや衛星携帯電話、避難所への物品など調達。被害調査の他、自宅・センターからの物品の持ち帰り含む。<3/23 9:00 羽田発の飛行機で 10:10 秋田着。12:58 秋田駅発で 14:39 盛岡駅着、そのままタクシーで大槌へ向かうか、あるいは新花巻駅から佐藤准教授の車で大槌へ。大槌着 1700 頃に着き、大槌高校避難所か城山公民館で第 3 次隊と落ち合う>という案が出される。

3月21日

11:00 寄付文案の検討。12:50 第 3 次隊、羽田より秋田に出発(ANA875 便)。16:29 臨時「こまち」で盛岡へ。盛岡で追加物品（ペットフードなど）購入。18:00 海洋研究開発機構・磯崎海洋工学センター長から所長へ、白鳳丸による放射線調査についての依頼。19:20 柏で第 4 次隊、輸送救援物資調達。

3月22日

9:00 第 3 次隊岩手県庁にて打ち合わせ、10:00 タクシー1 台で盛岡発。県庁の車もほぼ同時に大槌に向かう。12:00 第 3 次隊大槌着。城山体育館で町役場担当者と打ち合わせ、物品配送センター周辺状況の把握、官舎（日向職員宿舎：以下鶴住居宿舎）の状況把握、官舎の大竹センター長の部屋に宿泊予定。14:00 被災者の柏での住居手配についての打ち合わせ（インターナショナルロッジ・柏ロッジ等）。20:00 所長より所員へ災害対策状況についてのメッセージ発表。被災者に対する柏での住居支援リストを作成。21:20 所長より教授会構成員へ延期されていた 3 月の教授会を 3/28 の 13 時 30 分から開催と連絡。

3月23日

9:00 第 4 次隊（佐藤・福田）が羽田を出発。9:30 被災者の住居支援について事務部と本部との打ち合わせ。10:21 第 4 次道田・大竹隊（赤浜避難所）から池田部長へ電話。東谷さん

(事務補佐員)と直接面会したこと、鵜住居宿舎の1-2階には間もなく電気が来ること、沿岸センターの片付けには多人数が必要なこと、携帯電話はauしか通じないことなどの報告あり。また、現地採用で自宅を無くした黒沢・伊藤・東谷の3名の宿舎として、川辺・大森・佐藤の移動後の鵜住居宿舎が利用できないか検討してほしいとの依頼。11:45 沿岸センターの建物診断について本部へ打診した際、秋篠宮様よりご心配の連絡があったとの情報を得る。12:20 大海研総務課から本部留学生・外国人研究者支援課に被災者のための住居支援を要請。16:24 施設部施設企画課事業企画・地域連携チームより連絡。第5次大槌派遣隊に本部から施設部施設企画課高橋氏と資産管理部管理課川口副課長が同行したいとのこと。18:32 施設部から3/24の計画停電は中止との連絡。18:47 被災学生PCの調達について検討した。

3月24日

9:25 被災学生向けリユースPCの件で本部資産課から4台貸し出し可能との連絡。10:00 物性研共同利用係より、3名の学生の宿泊日程の延長・追加を了解との連絡。11:40 宮崎名誉教授からOB会寄付金(仮称)の発起人について連絡。12:14 沿岸センター教職員の鵜住居宿舎への入居等について、入退去の許可は大海研所長が行う、被貸与者は、所長が認めれば短時間勤務教職員でも可能、貸与手続きは総務チームに所定の貸与申請書を提出し、承認を得る。宿舎使用料の支払いは本部宿舎チームからの振り込み依頼書により行うことで良いとの連絡有り。17:24 第3次隊(大竹センター長・道田教授)羽田着。18:09 施設部より25日の計画停電は中止との連絡。20:05 前田理事・松本理事より電力の使用抑制に対する一部解除についての通知。20:12「計画停電・電力抑制」についての検討。

3月25日

朝、第4次隊(佐藤准教授・福田助教)佐藤の車で帰着。12:00 陸上研究推進室長より柏の研究棟の被害状況報告。12:19 沿岸センター関係者(岩間みな子、東谷幸枝両非常勤職員)に直接会って安否確認できたことの報告有り。14:45 第5次隊(沿岸センター建物への立ち入り可否の診断・ボンベ処理)派遣打ち合わせ。センターの前まで大きな車で行くことは可能。鵜住居宿舎は宿泊に使えるが、電気のみ。電子顕微鏡室は鍵が開かない。保管庫と耐火金庫は残存。避難所では食べ物は充足。RI室も冷蔵庫は大丈夫で、閉鎖手続きのための残存量の記録は残っている。図書室は、流出図書多数。などの報告有り。15:50 陸上共通実験施設の利用に関する所内連絡。16:10 拡大災害対策本部会合(所長・道田・大竹・佐藤・木村・新野・木暮・小島・永田・福田・池田・川辺・安田)。18:30 26日・27日の柏キャンパス計画停電中止の連絡有り。

3月26日

11:00 4月以降の宿舎を被災者3名が希望しているとの情報受領。

3月27日

12:22 節電と学生の安全確保に関しての所員向け依頼の検討。18:28 28日の計画停電中止の連絡。

3月28日

0:17 第5次木暮隊の計画要領配布。9:30 本部管理課より、柏ロッジ・柏の葉ロッジの空き部屋の使用については夏まで寄宿料は免除、実費を本人または部局で負担との連絡。10:00 第5次隊打ち合わせ（木暮・福田・池田・鷺山物性研技術職員）。10:00 白鳳丸晴海に帰港。4月3日にドックに向けて出港予定。12:47 沿岸センター被災者のためにゲストハウスの宿泊予約。18:38 電力節減・計画停電に関する環境安全管理室から所員への依頼検討。20:56 沿岸センターメンバーの柏キャンパスでの暫定居室配置を決定。

3月29-31日

第5次隊（木暮教授、高橋健太（施設部施設企画課、事業企画・地域連携チーム）川口克己（資産管理部管理課副課長）（建物診断資格者）、鷺山玲子（物性研、低温液化室）、福田助教、川辺専門職員）派遣。センター建物の安全性点検、高圧ガスボンベ類のチェック、避難所（赤浜小学校）への物資輸送。危険箇所の注意も指摘いただく。

3月30-4月1日

第6次隊（大竹センター長ほか15名）派遣。教員室、学生室、センター長室の物品、データ類の回収、計算機関係の被災状況の確認、高圧ガスボンベの回収、被災の象徴になるような物品の回収、事務室金庫の搜索、自宅に残された生活物品の回収などをミッションとするも、瓦礫に阻まれていくつかは次回に延期。

3月31-4月1日

災害対策本部長を西田所長から新野新所長に引継ぐ。

4月4日

沿岸センター災害支援基金への協力依頼発信。

4月6-9日

第7次隊（大竹センター長ほか9名）派遣。学生・教員の物品回収、レンタル契約の電子計算機関連の被災状況の確認、未回収高圧ガスボンベの回収、薬品回収、CTD本体、データ処理PC、水中カメラの回収、ADCP、サイドスキャンソナーの回収、共同利用研究員宿舎208号室のドア撤去、および室内の点検、義援金の手渡しを目的。

4月8日

午前、濱田純一総長、沿岸センターの被災状況を視察。東梅大槌町副町長と会談され、沿岸センターの復旧を約束される。

4月11日

大学本部に救援・復興支援室設置（室長：前田理事・副学長）設置。同室内に大槌復旧建設班（班長：新野所長）も設置。以来、毎月1回室会議を開催。

4月14-16日

第8次隊（大竹センター長ほか6名）派遣。薬品類・廃液、RIおよびRI標準線源装備品の回収と搬送を行った。RI標準線源装備品はポンプ室、その他薬品・廃液類は危険物倉庫に鍵をかけて保管。支援物資は全て安渡小学校に配布。以降5/14までに延べ11回にわたる現

地派遣。

4月20日

大海研、災害対策本部を解散し、沿岸センター復興対策室および復興委員会を設置。

5月2日

大槌町のご厚意により城山の中央公民館の1室を提供いただき沿岸センター復興準備室を設置。新野所長、大竹沿岸センター長、西村副学長が東梅大槌町副町長と会談。また、所長が県広域沿岸振興局長・県水産技術センター長と会談し、沿岸センター復興への支援を要請。

5月13日

遠野市に本部救援・復興支援室の遠野分室設置。前田理事・副学長が大槌町副町長、県広域沿岸振興局長と会談。沿岸センター復興準備室内に救援・復興支援室大槌連絡所を設置。沿岸センター本館3Fに復興準備室現地事務所を設置。

5月15日

沿岸センター本館3Fにキャンパス計画室の河谷特任教授、太田特任研究員の協力のもと、電気・水道を引くと共に、建物内の瓦礫を片付け、仮設トイレの設置を進めることを決定。

5月20日

沿岸センター船具倉庫脇まで水道を引き、蛇口を3個設置。沿岸センター研究棟脇に仮設トイレ設置

5月20-31日

沿岸センター研究棟と敷地内の瓦礫撤去および館内の整理・清掃。中央公民館内の沿岸センター復興準備室に電話回線引き込み工事、インターネット接続。

6月21日

江川理事のご努力により、東大基金に沿岸センター活動支援プロジェクトが立ち上がる。

8月22日

新船艇グランメーユ（フランス語で大きな木槌の意味）の進水式が大槌漁港で新野所長、大竹沿岸センター長、黒沢技術専門職員ほかの立ち会いの下に行われる。外来研究員の再募集と共に、共同利用研究の再開。

8月26日

大槌町町長選挙で碓川氏当選。

9月初旬

岩手県による沿岸センター周辺の仮設防潮堤の建設始まる。

10月13日

第1回大槌町復興まちづくり創造懇談会（大竹沿岸センター長はアドバイザーとして出席）。

10月16日

船舶関係の特任専門職員として矢口氏を雇用。共同利用研究支援の充実

10月19日

柏にて高橋浩進大槌町副町長と所長が懇談。

11月10-12日

長年、沿岸センターで行われてきている海洋物理と気象に関する2つの共同利用研究集会「黒潮・親潮続流域の循環と水塊過程」・「北日本を中心とした降水・降雪特性に関わる海洋大気陸面過程」が大槌町の中央公民館で大槌町と共催で31~36名の参加を得て行われる。宿舎には大槌町の浪板研修センターを利用させていただく。

11月11日

高橋浩進副町長より新野所長と道田教授に「大槌町と東京大学との復興業務に係る連携協定」について打診あり。

11月11日

仮設防潮堤完成。

11月21日

第3次補正予算成立。

12月5日

大槌町の漁師より被災した船体の寄付を受け、東大基金沿岸センター支援プロジェクトにより購入したエンジンを取り付け、2隻目の調査船「赤浜」進水式。

12月13日

大槌町町再生創造会議で東日本大震災復興基本計画の最終案了承。赤浜地区の防潮堤の高さは県の方針（14.5メートル）と異なる現況6.4メートルに。

12月17日

大槌町中央公民館において、沿岸センターシンポジウム「三陸沿岸生態系に対する大津波の影響と回復過程に関する研究報告会」（主催：大気海洋研究所・大槌町）開催。

12月20日

凍結防止のため給水管保温工事。

12月22日

沿岸センター建物再建のためのキャンパス計画室との打合せ（西村室長、平井施設部長、三浦副理事、黒瀬助教、松田助教、大竹センター長、永田教授、福田助教、川辺専門員）。

12月27日

大槌町とセンター復興に関する打合せ（高橋副町長、熊谷産業振興部長、徳田復興局班長、大竹センター長）

2012年**1月6日**

大槌町とセンター復興に関する打合せ（大竹センター長、道田教授、高橋副町長、碓川町長）

1月7日

全国水産系研究者フォーラム（於：沿岸広域振興局（釜石））

1月12日

沿岸センター建物再建のためのキャンパス計画室との打合せ（西村室長、松田助教、大竹センター長）

1月17日

沿岸センターに湯沸かし器とプロパンガス設置。

1月23日

窪田准教授、松田助教が大槌視察（大竹センター長が対応）

1月24日

大槌町との連携協定の打合せ（高橋副町長、佐々木副町長、鈴木副理事、加藤企画課長、赤崎、大竹センター長、道田教授、吉田事務長、川辺専門員）

2月7日

連携協定が結ばれた後の町との連携の調整のために、本部救援・復興支援室大槌復旧建設班の中に、連携活動部会（部会長道田教授）の設置が認められる。

2月-3月

沿岸センターにFRP水槽2個の設置、コンクリート水槽3面の復旧（海水の供給はセンター前のくみ上げポンプによる）、温水シャワーユニットの設置、倉庫の設置など。

3月2日

大海研協議会において、平成24年度大槌地区共同利用研究として、外来研究員31件（102名）、共同利用研究集会3件（120名）の採択が認められる。採択通知には、センターで作成した「沿岸センター安全衛生ガイドライン」を添付。平成23年度は、最終的には、外来研究員53件採択のうち19件、研究集会4件採択のうち4件を実施した。

3月13日

キャンパス計画室松田特任助教作成のボリュームスタディ案に基づく、沿岸センター建物再建案の打ち合わせ。

3月19日

大槌町において、濱田総長、道田教授（連携活動部会部会長）、中井教授（連携活動部会副部会長）、碓川町長、阿部町議会議長、高橋副町長、岩手県職員1名が出席して、「東京大学と大槌町との震災復旧及び復興に向けた連携・協力に関する協定書」協定書調印式及び記者会見開催。